

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572308005		
法人名	ホブシー有限会社		
事業所名	グループホーム ホブシー		
所在地	秋田県潟上市天王字上北野71-8		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別での対応、行きたいところでの外出や買物、外食など入居者個別の外出支援。町内行事への参加と花壇や畑を利用し、収穫を楽しむ。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/index_cat249.html
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個別での外出対応支援が積極的に行われている。散歩等の日常的な外出のほか、個々のニーズに基づき、外食や買い物、旅行等まで支援対応されています。町内会の諸行事に参加して地域と交流したり、地域の方や子供が気軽にホームへ立ち寄ることもあります。大きなウッドデッキの目の前には、ホームの畑があり、作業を見たり、収穫を楽しんだりしています。看護師が月2回、ホームへ来て健康管理をするとともに、かかりつけ医と連携を図り、医療連携の指針の下、定期的に医療連携会議が開催されています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通3丁目9-31		
訪問調査日	平成22年8月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・入居者第一・黒子の介護・模擬家族以上3点に花棟独自にサブタイトルを作成し共有、実践に繋げるべく努力している。カンファレンス等の際、状況に応じて再確認し現状と照らし合わせ目指した実践へと結び付けている。掲示している。	企業理念のもと、理念サブタイトルを作成して、職員個々人が目標設定し、カンファレンス等において、再確認して、現状と照らし合わせながら、共有実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ参加(総会・早朝清掃・運動会・文化祭等)町内行事の参加や散歩、買物時に挨拶や会話等交流を図っている。また、近所の子供が遊びに来る。	今年から町内会に加入され、総会や運動会、清掃活動等の諸行事に町内会会員として参加しています。また、散歩や買い物時には、日常的な会話を交わしたり、近隣の子供もホームへ遊びに来たりしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	町内会議への参加している。散歩や行事参加することで、実際に見ていただいている。また、実際に入居者と地域の方と交流することで理解が広まってきていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行なっている。グループホームの現状を理解して頂き、客観的な意見を伺う機会としている。必要事項は会議の内容をミーティング等で報告している。	町内会長、班長、民生委員、婦人会員等がメンバーとなり定期開催されています。ホームの現状報告、行事報告、避難訓練、タイムリーな話題等を提供され、意見交換が行われています。毎回行政からの参加を求める努力もされています。	市職員又は地域包括支援センター職員の参加が得られるよう、引き続き働きかけを工夫して、さらに活発で、質の向上につながる意見交換が行われることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築くよう取り組んでいる。空室になった時や入居希望者がいる時など連絡を取り合っている。運営推進会議への参加を要請しているが、実現していない。	申請書類手続き、入退居時や空室の連絡、運営推進会議の議事録提出で適時連携を図っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠していない。センサー設置。夜間は戸口にブザーを設置。自由な雰囲気大切にスタッフ間見守りにて身体拘束をしないケアを行なっている。身体拘束防止マニュアルがある。	玄関は夜間以外施錠していません。センサーや戸口へのブザー設置、職員間の見守り連携にて自由な雰囲気でのケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の確認く、全員で起こらないように防止に努めている。スタッフ1人で抱えこまないように本音を言える雰囲気作りに努めている。虐待に関する勉強会を行なっている。虐待防止マニュアル設置している。		

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用時、関係者へ情報提供、本人に混乱が無いように配慮している。プリントでの回覧など行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を反映できるように、意見や要望は記録へ残し、ミーティングや幹部会議等で検討しその結果を御本人や御家族へ伝えている。ご意見箱を設置している。面会時尋ねている。	ご家族には面会やケアプラン作成時に意見を聴取されています。また、年1回、家族会が開催され、ご要望等の聞き取りが行われています。聴取した意見要望については、ミーティングや幹部会議で検討され、その結果についてはご本人またはご家族へ伝えられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヒアリングや個人面談を行ない、意見や提案を話す事が出来ている。月1回ミーティングや月2回勉強会にて実践している。	個人面談やミーティングを定期開催して、意見を聞くようにしています。代表者も日頃から職員とのコミュニケーションを図り、実際に職員から出た意見を運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に話し合いの場を持つことにより、実践している。また、ホーム長、管理者から代表者へ伝えている。ミーティングやヒアリングにて不安に思っている事等相談できている。休憩時間が確保されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へ参加後、報告書作成し資料回覧している。スタッフ個人個人で年度目標を掲げ、達成できるように取り組んでいる。介護福祉士の実技試験に向け練習できる環境を作っている。代表者は、管理者、ホーム長を通して把握していると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との相互訪問交流を設けている。交流会や県GH協会、男鹿潟上南秋地区GH協会などへ参加し、サービスの質を向上させていく取り組みを行なっている。		

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を十分に傾聴し、信頼関係作りに努めている。本人を知る為に、記録に残し、情報共有など出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安、要望等には傾聴し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を尊重し、自由な空気の中で生活をして貰うように努めている。食事作り、掃除、洗濯等出来るだけ一緒に行なえるように支援している。入居者個々の能力に応じた役割を分担している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に情報交換を行なっている。入居者と家族での外出支援している(車椅子の貸し出し、外泊時の情報提供など)毎月状況報告の便りを送付している。特変時は電話にて報告うい意見を頂くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪問できる雰囲気作りをしている。自由に面会ができる。ショッピングに出掛けたりする。馴染みの方の来棟や馴染みの美容院等へ出掛けている。手紙や電話、面会などを通して行なえるように支援している。	本人の希望を聞きながら、馴染みの美容院等へ出掛けたり、自由に外出外泊ができる支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士がおしゃべりをしたり、時にはスタッフを交えながら孤立しないようにしている。入居者同士居室を訪問したり、外出している。孤立しないよう、さりげなく支援を職員全員で理念とし理解し行なっている。関係修復機会も設けている。		

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後への不安等を傾聴したり相談に応じている。必要に応じフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と話し合い、本人の意思を尊重している。希望があれば対応している。入居者一人一人の特徴を捉えた介護計画を作成し実践している。ミーティングやカンファレンスを活用している。居室環境(テレビやソファ、ベッド、布団等整えている。	日々の関わりの中で声を掛けながら、思いや希望を把握するように努めています。困難な場合には、表情や行動から汲み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りをし、入居後生活している中で情報収集している。家族の面会時に情報収集し、記録に残している。入居する際、馴染みの物を持ち込んで、自宅と同じ雰囲気大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録にて情報共有し把握に努めている。把握し、改善点があれば改善できるように努力している。一人一人のペースに合わせ、さりげない介助ができるよう努めている。無理強いせず、自由な雰囲気を心掛けている。本人のやりたい事出来ることを支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者と話し合っ希望や目標課題を明確にし、反映させている。定期的なカンファレンスに加え、本人、家族等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。月1回のミーティングや必要な場合は都度話し合いを行なっている。	本人、家族の希望や意向を聞き、居室担当者と管理者で作成後に、棟職員全員から確認を受け、意見を聞いています。また、現状に即しているか、月1回のミーティングや必要がある場合には、随時話し合い検討を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録し、申し送ることでスタッフ間で情報を共有し実践している。出勤したら、介護記録を読むことにしている。介護計画の見直しに活かしている。記入漏れがある場合は指摘しあっている。チェック表の利用や介護記録への記入をし、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の心身の状態や気持ちを尊重し、楽しむことができるように支援している。町内散歩や水心苑、コンビニやスーパーなど利用している。地域の文化祭に参加し、作品出展や芸能発表をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療や他かかりつけの病院利用などにより支援している。連携できている。本人または家族の要望があれば対応している。歯科、皮膚科、整形外科など必要に応じて受診している。	ホームの協力医療機関医師が月2回訪問診療し健康管理されています。説明により納得された入居者においては訪問診療に切り替えていただいています。以前からのかかりつけ医を希望される場合は、医師や家族とも連携しながら支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護のほか、日常的に相談など行い支援している。連携できている。情報や気づきを伝え、適切な受診や看護を受けられるように支援している。気軽に相談できる関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに見舞うことにより、情報交換や相談に努めている。連携できている。面会時に相談、情報交換を行いその後について備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間での意思統一出来ているため、問題ないと思われる。本人や家族の希望を取り入れて、出来るだけ添えるよう取り組んでいる。	状況に応じてかかりつけ医や看護師に相談、本人や家族の意向を踏まえ、タイミングを図りながら、説明を行い、ホームでできる限りの対応する方針を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践訓練を行っており、今後も予定に組まれている。マニュアルを設置しているが、実践力に不安有。連絡網あり。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防と協力し、年2回避難訓練を通し、備えている。夜勤一人の避難訓練も検討中。災害用の準備は出来ている。	年2回利用者とともに避難訓練を行っています。地域近隣の協力体制については、運営推進会議等を通して、町内会長から協力を呼び掛けています。	

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	状況に応じて小声でのさりげない声掛け等工夫し、プライバシーを損ねないように配慮している。混乱見られたときや失敗した時は他入居者から注目を浴びないようにさりげない支援している。	援助が必要なときも、状況に応じてさりげないケアに配慮しています。また、些細な整容等方法についても、カンファレンス等で話し合い、プライバシーを損ねないケアを徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選ぶ機会を作るよう努めている。行事食や普段のメニュー決め等希望を常に取り入れている。自己決定できるような声掛けを心がけている。入居者本人が何を望んでいるのか把握し、本人の気持ちを大切に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者第一を心かけ、強制はせず、本人のペースに合わせて支援している。希望に沿うようにしているが、入居者側からの希望が少ない。声掛け不足だと思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	起床時、好みの服を選んで頂いている。化粧、美容室、理容院等も希望に沿えるようにしている。必要に応じて、見守りや一部介助にて対応している。暑さ、寒さを考え、入居者自身で選んで着ている。整容の声掛けや支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者とスタッフが一緒に行なっている。毎日、入居者とメニューを考え、食材購入、調理、後片付けまで行なっている。個々に応じて、体調に応じて、刻みやお粥、代替メニュー等にて対応している。	食材買い出しに利用者と同行しています。また、献立作りや下準備、後片づけ等の一連の流れを共に行い、利用者と同一テーブルで食事しながら、雰囲気作りも大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタル表への記入や申し送りにて把握。水分不足の場合は代替のゼリー、寒天等で補っている。外部の栄養士からアドバイス頂いている。食事、水分とも摂取を心がけている。本人の好みやペースに合わせてたり、摂取量が不足している時は補食をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっている。必要に応じて声掛けを行なっている。就寝時、義歯洗浄剤を使用している。		

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンに合わせて、定時誘導、声掛けを行なっている。ポータブルトイレの自室への設置や定時のトイレ誘導を行なっている。身体状況に応じた支援を行なっている。	排泄パターンを記録チェックし、利用者個々に合わせ、声掛け、定時誘導、排泄器具等の活用により、段階的にオムツの使用を減らした対応支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	勉強会などにより理解を深め、食物繊維の多い食材を使用したり、牛乳、ココア、週2回ヤクルトやジョアの提供、散歩を行なっている。下腹部マッサージ等、個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックし、浴室の温度と浴槽の湯温の確認を行ない安全に努めている。拒否があった場合は無理には行なわず、本人の思いを大切にしている。努力している。夜間を希望している方には夜間対応している。	曜日、時間、回数や湯温等の希望を確認して、個々に沿った入浴支援が行われています。入浴を拒む人に対しては、言葉掛けや対応の工夫により支援を試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況、習慣に応じて対応している。不眠の訴えがあった場合、傾聴し安心して頂けるように支援している。自室や居間で一人ひとりが自由に休息したり安心して眠れるように支援している。本人の方言を声掛けに使用している。他入居者からどの様にうつっているのか疑問が残っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の写真を活用している。1錠ずつの服用を基本として実施している。個々の能力に応じた服用の仕方にて支援している。症状の変化に応じている。勉強会の開催や内服薬の変更があった場合は回覧にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や本人の得意なことを積極的に行なっている。裁縫や刺し子の提供、フラワーアレンジメント、畑、園芸、行事前に寒天作り等行なっている。個々にやってきた事や出来る事に応じて役割がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	毎日食材購入に出掛け、外出の機会を設けている。業務にはいらぬフリーな勤務にて個別に対応している。帰宅、買物、ウィンドウショッピング、ゴルフ打ちっぱなし等楽しんでいる。地域の人々の協力は得られていない。	職員付き添いにより、個別の日常的な外出機会が設けられています。散歩や買い物、趣味活動のための外出等、個々の希望にそった内容で支援に努めています。	

グループホーム ホブシー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に希望や能力、金額に応じて所持金、預かり金、立替と支援している。所持金使用や所持金を毎日スタッフ2人で確認している。レジにて精算する機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に気軽に行なえるように支援している。自室でも電話使用できる。手紙を投函する支援等行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度を9時0時に確認し調節している。棟内や玄関に季節の花を飾っている。畑仕事や行事を通じ生活感や季節感を提供している。居間には金魚の水槽がある。におい対策として、換気や消臭剤、消臭スプレーを活用し、心地よく過ごせるように工夫している。毎日2回のトイレ掃除を行なっている。	温度湿度管理を行いながら、自然の風を取り入れるため戸を開け、木製のベンチやウッドデッキ等でくつろげる空間を演出し、季節感ある装飾により雰囲気を作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	居間や廊下にソファを設置し、自由にくつろいで過ごせるように支援する事を心掛けている。入居者同士、部屋の行き来など、自由に行なっている。東屋やウッドデッキを活用。居間自席に記名している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物(タンスなど)を置くなど工夫をしている。	家族と相談して、馴染みの物や好みの物を持ち込んでもらい、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全として見守り重視し行なっている廊下、トイレ、浴室に手すりがあり、トイレは分かりやすく入居者の目線に合わせ大きく表示している。各居室には名札有。		